

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

特定非営利活動法人市民社会研究所

下線部が新規

1 基本方針

- (1) S S Kのミッションの純化（中間支援組織の外部化） * S S Kの事業体系図参照
- (2) 「研究所」としての機能強化
- (3) 対外的な発信力の強化

2 市民教育

(1) 人権

- ① 「実践行動につなげる人権のまちづくり研修支援事業」(三重県委託事業)
県民に対して「人権尊重の視点に立ったまちづくり」に関する研修会の実施
35回程度、参加者数1,500人をめど
- ② 東海市民社会ネットワーク等と連携してのSDGs関連事業
- ③ その他

(2) 政治・行政への参画（再開）

- ① 「新聞で学ぶ会」の復活（適宜）
- ② パブリックコメントへの参加（適宜）
- ③ その他（署名への参加など）

(3) その他

- ① コミュニティ・オーガナイジング研修会
「社会はこうやって変える！」をテキストにした学習会（組織内、なやプラザ等と連携）
- ② 音楽による市民教育
 - ・「とり残さない だれ一人」の広報・販売
 - ・「市民のくだまき音頭」の広報・販売
- ③ その他

3 社会的包摂の場づくり

(1) 伊勢おやき本舗

- ① 商品の改良・開発
 - ・伊勢おやきのメニューの復活・新作開発
 - ・四日市彩サブレの低額化
 - ・お弁当の味の向上
 - ・商品開発担当者の設置
- ② 販売の開拓・強化
 - ・イベント
 - ・まちなかの企業、総合会館、伊坂ダム
 - ・スプラウト
 - ・販売開拓担当者の設置
- ③ B型事業所・就労体験の場の提供・機能向上
ユニバーサル就労センター、ほくサポとの連携強化

(2) 北勢地域若者サポートステーション

① 数値目標

- (1) 就職者等 120人（月10人）
- (2) 就職等率 70%
- (3) 40代無業者就職等率 40%
- (4) 新規登録者数 170人（40代無業者含む）

＜昨年実績として、再就職者が占める割合が約40%であり、入退社を繰り返す人も散見されるので、「応募時のミスマッチを下げ、かつ、SU支援＝アフターフォロー」の強化が必要である＞

② 相談

- ・40代無業者（就職氷河期世代）支援として、「サポステ・プラス」の広報として、ホームページ内にバナーを設け専用ページの新設
- ・各相談員の自己研鑽、啓発によりサポステ相談者支援の更なる質的向上を図る
- ・面談を通じて、ほくサポの各種支援資源（講座、セミナー、ボランティア、集プロ等）への参加に繋げることによる、総合的かつ個人別支援計画に基づいた相談業務を行う。

③ 集中訓練プログラム

- ・年2回の集中訓練プログラム実施（各回10人目標）
- ・下記④の④講座・セミナーも含めて、講師との振り返り実施により、次回以降に向けて、良い点は伸ばしつつ改善、工夫にも取り組む。

④ 講座・セミナー

- ・三重県「若年無業者ジョブエスコート事業」として、一般講座を15回以上及び40代無業者対象保護者向けセミナー2回の実施計画
- ・四日市市「補助事業」として、計36回の講座、セミナーの実施計画

※昨年度に引き続き、グラフ作成やボードへ花の絵を書いての花びら枚数=参加者数の“見える化”を図ることで、スタッフの目標達成意識向上ひいては募集の強化とする。

⑤ 外部向け普及・広報

- ・下期に「働くを学ぶ会」の2回実施予定

⑥ 就労体験

- ・就労体験先企業の開拓=15社目標
- ・就労体験の利活用に向けて各相談員の更なる推進、案内を強化

⑦ ボランティア

- ・月4~5回 13:30~15:30 実施。物づくり、清掃、郵送作業等の奉仕活動を通じて、「自分の得意分野」発見を目標とする。なお、面談などでは伸ばしにくい「自己肯定感や社会人基礎力」を本人のペースで身に付けられるように考えている。

⑧ 三重県のひきこもり相談、支援への対応

- ・三重県ひきこもり支援ネットワーク会議等の関連会議へ参加し、三重県ひきこもり地域支援センター、障害者（総合）相談支援センター、保健所及び地区民生委員等との連携を通じて、情報の収集と出来るところへは積極的に参加していく。

⑨ サポステ独自の5か年計画の2年目として

- ・仮説に基づき就職のできない利用者の分析、他

⑩ 組織体制、その他

- (1) 運営団体内（ユニバーサル就労センター及びスプラウト・おやき）の更なる連携強化

(2) 規定の見直し、整備

(3) 新型コロナウィルス対策継続として、ZOOM 面談の実施、飛沫感染防止シートや面談机の隨時除菌清掃、来所者のスプレー消毒液による除菌の励行徹底

(3) トレーニングカフェ・スプラウト

① 生活困窮者就労準備支援事業所としての就労トレーニング

四日市市、鈴鹿市

② ほくサポ、ユニバと連携した就労トレーニング

③ トレーニング手法の開発

あいさつ、仕事の手法、演劇、お客様との対話 など

④ トレーニング効果の調査

トレーニング生へのアンケート、記録、面談等

⑤ 高齢者を中心とするユニバーサルな居場所の提供

手芸、絵画、映画、ゲーム、カラオケ等

⑥ スプラウトの取組の記録と発信

(4) 生活困窮者との食事を通じた実態把握と提言作成事業

*休眠預金コロナ枠事業（資金分配団体：公益財団法人中部圏地域創造ファンド）

① 趣旨

コロナ禍による労働条件の悪化に伴う生活困窮者が増加しているが、今後 with コロナの時代にあって、この状況が大幅に改善されることは予想しにくい。一方、少子高齢化の進行や中高年のひきこもりの増加など、生活保護費の増加は従来から大きな課題となっている。このような時代にあって、持続可能な生活困窮者支援のあり方について、当事者との親密な対話を通じて探り、政策提言を行う。

② 事業実施時期 2020年12月～2021年11月

③ 実施内容

1～10月 生活困窮者サロン（毎週火・金 無料食事提供）

6～8月 ①当事者アンケート

・四日市市生活困窮者窓口来訪者

②支援者ヒアリング

・生活困窮者 ・外国人 ・ひとり親家庭 ・女性 ・民生委員など

③当事者ヒアリング

・生活困窮者（スプラウト） ・母子家庭 ・外国人 など

8～10月 調査のまとめ（政策提言書作成会議の実施）

11月 ①提言書作成

②成果発表会

(5) 労働者協同組合の設立準備

① 趣旨

2022年12月の労働者協同組合法の施行に向けて、設立準備を行う。

② 内容

オリジナルソングの作詞・作曲・録音・CD制作・動画広報の試行

③ 労働者

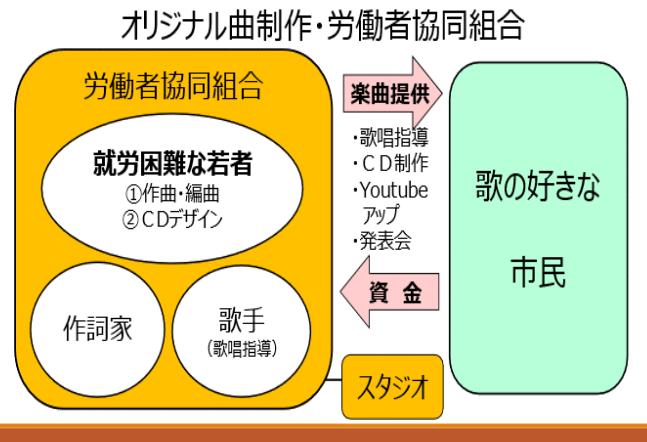
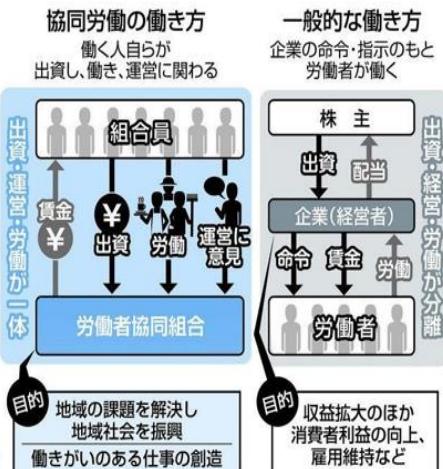
作曲家、作詞家、歌唱指導者、イラストレーター（外部連携として録音）

労働者協同組合法 成立

2020年12月4日
(施行2022年12月)

- ①組合員が出資
- ②組合員の意見を反映
- ③組合員自ら事業に従事
- ・官庁の認可は必要としない
- ・3人以上の発起人
- ・届け出のみで設立
- ・組合が組合員と労働契約

資料 東京新聞2020年12月5日



4 調査研究

(1) 各種調査研究

① 就労支援の実践を通じた研究

- ・ほくサポの実践を通じた効果的な支援の研究
- ・スプラウトの実践を通じた効果的な支援の研究
- ・ユニバーサル就労センターの実践を通じた障害者就労支援のあり方の研究

② 生活困窮者支援の研究

- ・生活困窮者との食事を通じた実態把握と提言作成事業を通じた研究
- ・四日市大学ゼミ研究と連携した子どもの貧困の研究

③ 社会的企業の実践を通じた研究

- ・伊勢おやき本舗の実践を通じた社会的企業の成功要因の研究
- ・スプラウトの実践を通じた社会的企業の機能に関する研究
- ・楽曲提供・労働者協同組合の実践を通じた労働者協同組合の可能性の研究

④ 力強い市民社会の形成に関する研究

- ・四日市大学食品ロス研究会と連携したコレクティブインパクトの研究
- ・他の中間支援組織と連携した中間支援組織のあり方の研究

⑤ その他

(2) 研究成果の発信

- ① 四日市大学論集への投稿
- ② NPO学会での発表
- ③ SSK研究シリーズの発刊（オンライン）

(3) 研究体制の構築

それぞれの研究テーマを分担できる研究員を確保する

5 他団体との連携

- ① 公益財団法人ささえあいのまち創造基金（事務局→独立化）
- ② NPO法人みえNPOネットワークセンター（会員・事務局→事務局独立化）
- ③ 東海市民社会ネットワーク（会員・事務局→当面維持）
- ④ NPO法人日本NPOセンター（会員）